



News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 492号

2016. 2. 8

発行責任者

岸田 義典

目次

2016

Vol. 2

- アフリカ乾燥地域での稲作収穫処理技術
(株)徳本適正技術研究所代表取締役 徳本靖氏...2
- BKT インドブジ新工場が始動8
- 国別輸出入 (2015年12月).....10
- WORLD NEWS.....16
- EVENTS CALENDER.....17

アフリカ乾燥地域での稲作収穫処理技術

(株)徳本適正技術研究所
代表取締役 徳本靖 氏

国際農業機械化研究会は、(株)新農林社と共催で、第 492 回海外農業機械事情報告会を平成 28 年 1 月 29 日（金）に開催した。講師は、(株)徳本適正技術研究所代表取締役の徳本靖氏。同氏は、昨年 10 月から約 2 ヶ月間、アフリカに於いて陸稲の第二次プロジェクトの展開を行なった。同プロジェクトを通して得た知見から、現地における稲作収穫・処理技術の留意点について写真と資料をもとに報告した。

要旨は以下の通りである。

はじめに

昨年はインドネシアとスーダンを中心に動きましたが、コメの生産が上がっています。とくにインドネシアは灌漑設備が整ってきており、乾期の稲作が進んできています。約 3,800 万 t のコメ生産高のうち 40% が乾期作で雨季収穫です。タイ、南ベトナムも同じ状況なのではないかと思えます。灌漑設備の普及の度合いにより、今後、乾期作がますます増えてくると思われます。ただし、乾期作の収穫は雨季に当たるので、雨季に収穫する技術が重要になってきます。

一方、タンザニア等のアフリカ諸国では、陸稲の生産が盛んになってきています。灌漑設備を新たに作るより、陸稲は水の使用量が 1/3 程度で済むので、ますます陸稲が主体になってくると思えます。当然、政府は灌漑設備の投資をしていますが、国土が広いので追いついていきません。灌漑設備は既に大規模灌漑設備があるエジプト・スーダンを除き、大きな投資が必要とされるため、水消費量の少ない陸稲（NERICA 等）の栽培が期待されています。

世界のコメ生産

それでは、現在の世界のコメ生産はどうなっているか（図 1）？ 昔からコメが 6 億トン、小麦が 6 億トンと言われていますが、やはり輸出用商品と

して流通するのは小麦が圧倒的に多いです。コメは自国消費の作物で、実際世界中で流通しているのは精米 1,000 万トンから 1,200 万トンで、残りは自国消費です。国内でのコメのビジネスをどうするかがとても大事になってきます。

アフリカでは乾燥粉生産で 100 万～120 万トン以上の国が出てきています（図 2）。ナイジェリア・エジプト・マダガスカル・タンザニア・象牙海岸です。現在のところはこの程度ですが、大きな市場となってくることが見てとれます。100 万トン以上の乾燥粉の生産国は人口の関係もありますが、タンザニア辺りが今後の稲作の中心になってくるのではないのでしょうか。100 万トンの乾燥粉から精米した全精米量が 60 万トンくらい。完全粒精米で 30 万トン以下しかありません。そして残りの約 30 万トンが碎米で、この碎米の一部を混ぜて規格品として流通しています。

インドネシアでは、プレミアムライスを政府が推奨しています。95% 以上の完全粒が合格ラインです。経済が豊かになると、碎米よりも完全粒や割れていても大粒のコメが必要範囲となってきます。こうなるとコメの価格が 20% 以上、精米できる乾燥粉の販売価格は 10～20% アップします。これは、インドネシアだけではなく、タイ、ミャンマー、ベトナム等、東南アジアのコメの生産国全体がこうした方向に向かっていきます。

スーダンは、稲作の後発国で、まだこの前段階の状況です。ただスーダンのいいところは灌漑設備が